資料　２

**第１回　「幼保小架け橋プログラム」検討会議においてご議論いただきたい論点**

項目１

今回の検討のテーマとなっております、５歳児と小学校１年生の円滑な連携につきましては、これまで３指針・要領や小学校学習指導要領の改定等により、様々な連携の取り組みが行われているところですが、国の調査においてはなお７割から９割の施設において、接続に課題があると感じているとの回答が得られています。この状況について、ご意見をお聞かせください。

項目２

中教審特別委員会では架け橋期を、子どもが幼児教育施設における遊びを通じた学びや成長を基礎として、小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期と捉えており、幼児期における「遊び」を通じて育まれてきた資質や能力が、各教科等の学びに円滑に接続される取り組みが求められております。小学校１年生の、５歳児教育の延長線上としての「遊びを通じた学び」について、取り組みの状況をお聞かせください。

項目３

大東市版「幼保小架け橋プログラム」の策定については、様々な方向性が考えられます。５歳児と小学校１年生の２年間に渡るカリキュラムを、就学前・就学後の教育・保育に携わる全ての皆さんに広く理解され、個々のカリキュラムに積極的に活用いただくためには、どのような「架け橋プログラム」を作り上げていくべきとお考えでしょうか。ご意見をお聞かせください。

項目４

「幼保小架け橋プログラム」は、２か年の架け橋期における、全市一律の共通プログラムを策定するものです。現在それぞれの園や学校においては、地域の特性や、施設の考え方に基づき、様々なカリキュラムが実施されているところですが、共通カリキュラムの策定・実施についてはどのような課題があるものと考えておられますか？ご意見をお聞かせください。

項目５

架け橋プログラム策定にあたりましては、就学前教育・保育施設と小学校との連携の他、小学校入学前に施設を利用しない子どもや家庭においても内容をご理解いただき、家庭教育の参考としていただくことが必要であると考えております。この方向性について、皆さんのご意見をお聞かせください。